

## 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 プレスリリース

平成24年4月26日

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会  
理事長 有山正孝

### 第43回国際物理オリンピック（IPhO2012）エストニア大会 日本代表決定について

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会（理事長：有山正孝・電気通信大学名誉教授）は、第43回国際物理オリンピック（期間：2012年7月15～24日 開催国／都市：エストニア共和国／タリン）に派遣する日本代表5名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテストで、全世界80前後の国・地域から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。

わが国は2006年、第37回国際物理オリンピック IPhO2006 シンガポール大会に初めて日本代表5名を派遣し、以来毎年参加しメダルを獲得している。2011年の第42回国際物理オリンピック IPhO2011 タイ大会での成績は、金メダル3、銀メダル2であった。

今回日本代表となった5名は、昨年夏につくば市で行なわれた「第7回全国物理コンテスト『物理チャレンジ2011』」（応募者1202名）において優秀な成績を収めたことにより日本代表候補者として選抜され、昨秋からのインターネットを利用した「理論問題・実験データ解析演習の通信添削」、冬休みに行われた「実験実習を主体とした合宿研修」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

5名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、今年7月の「第43回国際物理オリンピック（IPhO2012）エストニア大会」に備える。

なお、2013年にデンマークで開催される第44回国際物理オリンピックの日本代表選考を兼ねる国内コンテストとして、今年「物理チャレンジ2012」が開催される。詳しくは、ホームページ <http://www.jpho.jp> 参照。

### 第43回国際物理オリンピック（IPhO2012）日本代表選手

氏名	フリガナ	性別	学校名（所在地）	学年
榎 優一	エノキ ユウイチ	男	灘高等学校（兵庫県）	2年
大森 亮	オオモリ タスク	男	灘高等学校（兵庫県）	2年
笠浦 一海	カサウラ カズミ	男	開成高等学校（東京都）	3年
川畑 幸平	カワバタ コウヘイ	男	灘高等学校（兵庫県）	3年
中塚 洋佑	ナカツカ ヒロマサ	男	滋賀県立膳所高等学校（滋賀県）	3年

※ 以上5名 氏名50音順

<この件についての問い合わせ先>

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 事務局  
担当：曾根、菊池  
東京都新宿区神楽坂1-3 東京理科大学1号館13階  
TEL 03-5228-7406 FAX 03-3268-2345  
E-Mail: [info@jpho.jp](mailto:info@jpho.jp) URL: <http://www.jpho.jp>

## 日本代表のコメント

榎 優一：

エストニア委員会が発表している Physics Cup の問題を見てみると今年は問題がより難しくなりそうなので、国際大会では今までに培った力を十分に発揮できるようベストを尽くしたいと思います。

大森 亮：

このような機会を与えて頂き、本当に光栄です。この大会を通じて世界中の人々と交流し、また物理の楽しさ、奥深さを味わいたと思います。自分の経験を深める場ができるよう、精一杯頑張ります。

笠浦 一海：

今回、日本代表という非常に名誉なものに選ばれ、うれしく思うとともに大きな責任を感じております。日本代表として恥ずかしくない成績を残すとともに、この経験が将来に生かせるよう、精いっぱい精進をしていこうと思っております。

川畑 幸平：

日本代表として選ばれたことを非常に光栄に思います。去年に引き続き今回2度目の参加となりますが、これまでお世話になった先生方や先輩方に感謝し、大会では精一杯頑張りたいと思います。

中塚 洋佑：

物理オリンピックに参加することになり、とても驚いています。物理チャレンジに参加したとき、僕は高二だったので日本代表になれる最後のチャンスでした。日本代表として、メダルを狙っていききたいと思います。

## 「国際物理オリンピック」について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満でかつ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表たちが、大学・高校教員からなる引率役員（リーダー、オブザーバ）とともに参加する。約10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、他国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国／都市は、2004年韓国／浦項、2005年スペイン／サラマンカ、2006年シンガポール、2007年イラン／イスファハン、2008年ベトナム／ハノイ、2009年メキシコ／メリダ、2010年クロアチア／ザグレブ、2011年タイ／バンコク。参加国数は増加傾向にあり、タイ大会には、85カ国・地域から393名の代表が参加した。

我が国は2006年の初参加より毎年代表を派遣し、メダルを獲得している。これまで6回の参加において、金メダル8名、銀メダル8名、銅メダル10名、入賞4名という成績をおさめている。

#### <今回の大会>

- 「第 43 回国際物理オリンピック (IPhO2012)」  
会 期： 2012 年 7 月 15 日～7 月 24 日 10 日間  
開催国／都市： エストニア共和国 / タリン市

#### <前回の大会>

- 「第 42 回国際物理オリンピック (IPhO2011)」  
会 期： 2011 年 7 月 10 日～7 月 18 日 9 日間  
開催国／都市： タイ王国 / バンコク市  
参加国数／参加者数： 85 カ国・地域 / 393 名  
日本代表の成果： 金メダル 3 名 銀メダル 2 名

### **特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会について**

国際物理オリンピックに派遣する日本代表を選抜・訓練し、国際大会に派遣する事業は、日本物理学会、応用物理学会、日本物理教育学会、日本生物物理学会の会員有志が 2006 年に結成した任意団体「物理チャレンジ・オリンピック日本委員会」が、財団法人日本科学技術振興財団（2011 年 4 月 1 日から公益財団法人）の協力のもとに科学技術振興機構を通じて国の支援を得て実施してきたが、今後永続的にこの事業を実施するためには主体となる法人を設立することが必要と判断し、2010 年 11 月に特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会の設立認証を申請、2011 年 3 月 11 日付で認証され同 23 日に登記を終了した。

当法人は言うまでもなく「物理チャレンジ・オリンピック日本委員会」の事業を継承するものであるが、その事業の意義は国際物理オリンピックに日本代表を派遣することに留まらず、その選抜の過程において我が国の高校生・中学生の間に広く物理に対する興味・関心を喚起するとともに、学校教育における物理教育の質的向上を促すことを期待している。